



三つ柏

— MITSU KASHIWA NO.5 —

令和3年5月13日発行

今年度、こんな子どもに育てたいです

私たち職員は、目標をもって子どもたちの教育に取り組んでいますが、中でも学校で一番大事なのが学校教育目標です。「三つ柏」のタイトルの右上にも載せていますが「夢に向かい 心ゆたかに たくましく」です。大切なことが三つもあり、白岩小の伝統を引き継ぐものですから、今年度も継続します。

次に大事なのが、右の「目指す子どもの姿」です。これらは、職員みんなで、学校教育目標と関連付け

ながら、子どもたちの実態を見て、この一年でこんな風に育ってほしいと話合いながら決めました。ふるさとについて学び、ふるさとを好きになり、ふるさとを支える人になって欲しい。自分のよさだけでなく、周りの人のよさを見つけ、それを伝えられる人になって欲しい。自分一人で考えるのではなく、ほかの人の考えにふれて自分の考えをより深められるようになって欲しい。そして、それを話したり書いたりできるようになって欲しい。与えられた問題を解くだけでなく、自分で問いを見つけ、あきらめずにじっくりと解決に向かって欲しい。こんな思いが込められています。

もちろん、望むだけでは、そんな子どもには育ちません。実現するためにいくつもの取組を行います。主な取組二つを紹介します。

一つ目は、目指す子どもに育つような授業を行えるように職員みんなで勉強することです。私たちには、子どもたちが帰った後、集まって研修する機会があります。そこで、自分の行っていることやほかから学んだことを伝え合ったり、校外から指導者を招いたりして、子どもたちの力を付けるよい授業ができるように学んでいます。授業をする力には、ここまで完璧というゴールが無いので大変ですが、子どもたちのために努力しています。例えば、今年度から一人一台配られたタブレットも使用法について学んでいます。さらに、授業のどんな場面でどのようなことに使えるかも探っています。すでに授業で使い始めた学年も多いです。

二つ目は、地域の皆さん、保護者の皆さんと「協働」することです。「協働」とは、目的に向かっていっしょに活動を行うことですが、片方だけが得をするのではなく、お互いにとってメリットがなければいけません。学校が一方的にやってもらったり、助けてもらったりというのが今までは多かったのですが、学校も地域のために役立てるようにします。現在児童会では、何ができるかを検討中ですし、今まで地域の方のご支援でできた行事についてもやり方を見直し、地域のためにという視点を持ちます。もちろん、それらを通し、子どもたちにどんな力を付けるかも考えます。

これらを重点として、目指す子どもの姿が実現するように職員一同がんばります。このことについてご意見のある方は、連絡帳や電話を使ってお寄せ下さい。お待ちしております。

目指す子どもの姿

◎ふるさとを愛し、未来を創る力を身に付けた子ども

○自分のよさ、相手のよさ、ふるさとのよさを見つけられる子ども

○他と関わることで深めた思いや考えを相手に伝えられる子ども

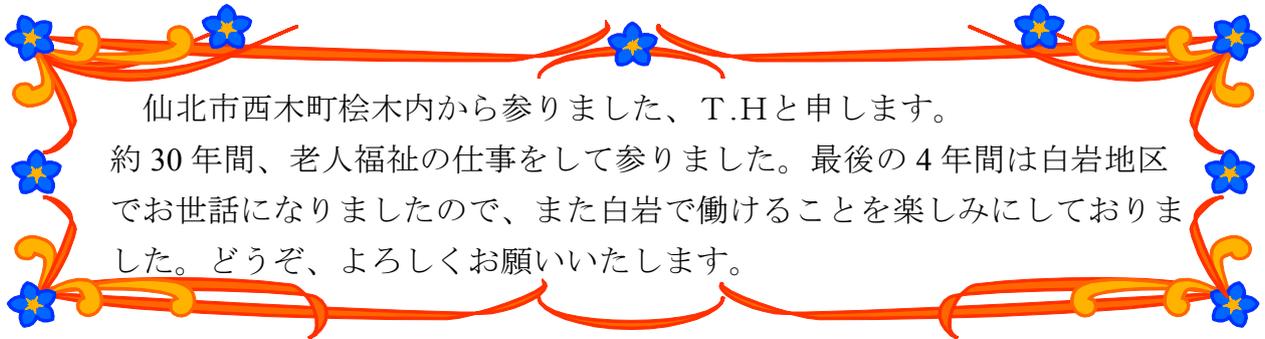
○問いを見つけ、粘り強く解決を目指す子ども

新しい職員が仲間入りしました

大型連休明けから新しい特別支援教育支援員が配置されました。

T.Hさんです。子どもたちにとってもよいニュースです。さっそく休み時間に話しかけている子どももいます。

Tさんからのごあいさつです。



仙北市西木町楡木内から参りました、T.Hと申します。

約30年間、老人福祉の仕事をして参りました。最後の4年間は白岩地区でお世話になりましたので、また白岩で働けることを楽しみにしております。どうぞ、よろしく願いいたします。